

学 会 名

リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島2023
(2023年10月26日～27日)

研究テーマ

非骨傷性頸髄損傷患者の疥癬ケアを通じた多職種アプローチ

病 院 名

医療法人社団健育会 石巻健育会病院

演 者

○橋本真彩(看護師)
佐藤和(看護師)阿部美穂(看護師)加藤智美(看護師)佐々木盛力(医師)
佐々木大介(薬剤師)小野寺泰弘(作業療法士)門脇佑輔(理学療法士)
鈴木敦史(管理栄養士)吉田隆(医療相談員)

概 要

【はじめに】

今回重度の四肢麻痺で疥癬・褥瘡があり、心身の苦痛が強い患者に対し多職種で連携しケアを行った。ケアにあたり、KOMIケア理論によるアセスメントを活用、その結果、疥癬・褥瘡の早期治癒と意欲向上に繋がった事例を報告する。ナイチンゲールKOMI(Kanai Original Modern Innovatino)ケア理論とは、ナイチンゲール看護思想を基盤とした看護理論である。特徴として「生命過程・認識過程・生活過程」の3つ過程を丁寧に観察し、2つのチャートに記載し可視化することで、生命力や持てる力(残された力・秘めた力)を捉えるものである。

【事例紹介】

60歳代、男性
家族構成：長男・次男と同居
職業：運送業自営
現病歴：洗車中に1m高さの脚立から後ろに倒れ受傷。精査の結果、非骨傷性頸髄損傷と診断され頸椎3～6番黒川法施行。受傷から44日目に急性期病院より、当院回復期リハビリ病棟へ転院。
入院時の状態：ADL全介助、転院時より全身の湿疹著明にて同日皮膚科受診し、角化型疥癬が発覚した。仙骨部に褥瘡あり。
医師からの病状説明：重度の四肢麻痺があり、麻痺の回復・自宅退院は厳しいと説明あり。

【倫理的配慮】

症例をまとめるにあたり、患者個人を特定するような表現はしないことを、患者・家族へ口頭で説明し同意を得た。

【経過】

転院当日より疥癬に対する感染管理に努めながら、多職種でリハビリを中止することなく介入する方法と入浴のケア時間などを相談し調整した。
患者は突然の受傷と隔離による精神的苦痛や関節拘縮による身体的苦痛が強かったため、リハビリ以外の時間は看護師が他動運動による拘縮予防やマッサージで苦痛の緩和を図り思いの傾聴に努めた。
入院当初、体位変換の拒否がみられた患者だったが、患者と多職種で褥瘡写真・体位変換表・ポジショニング表を共有したことで患者の協力が得られた。
その結果、疥癬・褥瘡ともに入院1か月以内に治癒。患者から感謝の言葉が聞かれリハビリへの意欲に繋がった。

【考察】

ナイチンゲールは看護における三重の関心(知・技・心)の重要性を述べている。入院当日より患者を的確にアセスメントしたこと、多職種で連携しながらケアを工夫したこと、患者に関心をよせ心のこもったケアを実践したことが患者の苦痛の緩和と回復の促進に繋がったと考える。
また、看護師によるマッサージは、患者に手の効用をもたらし、苦痛の緩和を図る手段として有効的であったと考える。感染隔離中で心身ともに消耗している患者への癒しのみならず、一人の人間としての尊厳を守ることにも繋がったのではないかと考える。